

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001559		
法人名	平成フードサプライ 有限会社		
事業所名	グループホーム 名古屋一色の家		
所在地	愛知県名古屋市中川区一色新町2丁目2001番地		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	平成22年3月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371001559&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371001559&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年12月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地にあり落ち着いたホームである。職員と利用者が一緒に出来る事を見つけ、一つ一つ増やしながら、常に寄り添い温かい“家”を目指している。理念に添って、日々共に過ごし、一人ひとりへ言葉かけの工夫をし、根気よく利用者様自らのやる気を引き出す事に職員全員で努めている。又、職員を育てる取り組みにも力を入れ、同じ目標に向かいケアの統一・質の向上をはかっている。地域の方により理解を深めて頂くため、地域行事への積極的参加やボランティアで週に1回、利用者様と共にゴミ集積所の掃除を実施。地域の方と密にコミュニケーションを取り合うことで、連携・交流に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人は誰も一人では生きて行けやしない…」で始まるしゃべり言葉で綴られた理念に、まず驚かされる。最後は、「共に暮らそうこの家で」と結んで、利用者だけでなく、職員もまた疑似家族の一員であることを宣言している。その証明となるエピソードがある。リビングには応接セットが置かれているが、その足元が板張りのために寒々しいと感じた管理者と職員が相談してフロアーマットを設置した。フロアーマットに足を置いた時に感じた温かさは、管理者と職員の心のぬくもりであったことに気付く。地域への浸透に苦勞していた時期もあったが、助けたり、助けられたりの相互通行となってきた。最後に、母体法人が主催する今年度の院内学会で、管理者が見事「院長賞」を受賞したことを付け加え、さらなる質の向上に向けての激励の言葉としたい。

## サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『人は誰も一人では生きていけない 互いが互いをいつもケアしあい 共に暮らそう この家』を理念とし、全職員が共有している。利用者様一人ひとりの生活を尊重し、常に寄り添った介護が出来るよう努めている。	ホームの理念としては型破りな「しゃべり言葉」で創られている。法人が主催する今年度の学会で管理者が「院長賞」を受賞したことにより、ホームのの取り組み姿勢(理念)を後押しすることとなった。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に属し、利用者様が地域の一員として地域行事の情報を頂き、出来るかぎりの参加に努めている。	小学校のソフトボール大会を見学に行ったり、ホームで地域対象の口腔ケアセミナーを開催するなど、地域参加に力を入れている。漫談やマジックのボランティアも訪れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週に1回ボランティアで利用者様と共にゴミ集積所の清掃を実施。食材や、生活用品は地域のスーパーを利用している。利用者様は地域の方との会話を楽しみ、又、地域の方の認知症相談に職員が応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催。地域行事への参加、ホームでの行事などを報告し、会議の参加メンバーから評価を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月毎に行われているが、会議の時間帯が夜間に設定されるため、利用者や行政担当者の参加がない。	ホームの質の向上のためにも、適切なメンバーによって開催されることが望ましい。あきらめずに、地道に参加依頼を続けていただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所(生活保護担当者)と密に連絡を取り合い、情報を交わす。又、相談を頂いた生活保護の方への入居対応をしている。	困難事例や苦情が発生した場合等、ホーム内で解決できないときには、区の担当者と連絡を取り合って解決方法を探っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルに基づき、定期的に研修を実施し、ケアの見直しをはかっている。玄関の施錠は防犯上、必要な場合のみとしている。	昼間は玄関入口の施錠はされておらず、夜間のみ防犯上の理由から施錠される。居室にも鍵がかけられるようになっているが、施錠は利用者本人の意思に任されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルに基づき、定期的に研修を実施し、虐待防止に努めている。小さな気付きも記録に残し、具体例として職員会議などであげて、注意・喚起をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度、NPO、権利擁護センターなどに金銭管理をお願いしている利用者様を通じて、情報を得ながら理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもとより、常に日々コミュニケーションを取り合い不安の解消に務めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者様への嗜好調査を実施している。又、日々の会話の中で出た要望を実現に向けて必要な働き掛けを行っている。	評価機関の手違いから、全ての家族にアンケートが届けられなかった。返信されたアンケートの自由記述欄への家族意見の記入は少なかった。	家族からの意見や要望がないことを善しとしてはならない。意見が出ることの工夫を願いたい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内の行事に関する意見は“企画書”を提出。又、運営上のコスト削減やサービス向上に関する意見は“シルバー100”を提出している。	管理者のもとには、職員からサービス向上に向けての有用な意見や提案が上がってくる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員の個人評価をつけ、昇給に反映させている。各研修課程を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は定期的実施される研修課程を積極的に受講している。又、ケアの実際と、力量に合わせた研修課程を設けることで、職員一人ひとりのケア向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中川区介護保険関連事業者連絡会に参入し、他事業者との連携・情報提供ネットワークの確立、苦情処理・解決に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームの見学をして頂き、雰囲気・環境を知って頂く。又、事前の面談にて本人様の話を傾聴し、心身の状態や思いを受けとめることで、安心して生活頂けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思い・不安など小さなことも相談頂けるよう、時間をかけて傾聴していく。安心して何でも言える関係作りを心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様本人・ご家族様の要望を受けとめ、最優先の支援は何かを話し合い、ケアプランを作成。それを基に全職員統一したケアをはかる。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームの理念の基、共に日常生活を送る中で、支え合える人間関係づくりを心掛けている。生活の中に役割を持っていただくことにより、共に生活をしていることを実感頂く。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と一緒に支援していることを心掛け、ご家族様の思いをケアへ反映させる。利用者様本人の様子を、常に伝え共有できる関係づくりをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、その人の生活を継続できるよう個々のケアに力を入れている。馴染みの方にも気軽に訪問して頂ける雰囲気づくりに努めている。又、希望があれば入居前に利用していたお店や施設を継続し利用する。	以前住んでいた近所の友達や、訪問介護で世話になった職員が訪れることがある。3ヶ月に1度は訪問理美容があるが、馴染みの美容院を使っている利用者もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居前に面談した際、利用者様本人の状態・内面的把握をし、入居フロアを考慮している。利用者様同士の関係づくりに職員が介入し、支援している。利用者様同士出来ることを助け合いながら共に生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	諸事情により退居される方へも必要に応じ、今後の本人様の生活・ご家族様の不安解消等の相談に応じている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後も利用者様本人の生活が思いに近い状態で出来るよう、個々のケアに力を入れている。利用者様の希望・思い・小さなサインにも常に気づけるような関係づくりをし、ケアへ反映させている。	言葉で自身の意思を表出できない利用者もいるが、態度やしぐさ、表情等から本人の意向を把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談にて、利用者様本人・ご家族様より情報を頂く。主にその人の暮らし・環境の把握に努めている。他、入居前のサービス利用者等からの情報収集もはかる。又、個人情報保護に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様本人の生活を基盤とし、共同生活における役割を持つことで、残存能力の活用をはかる。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者様本人・ご家族様・職員と現状把握に努め、ご家族様にもカンファレンス会議へ積極的に参加頂く。細かな意見も取り上げ現状・希望を取り入れた介護計画を作成している。	前回の評価では、大きな改善指摘が出た項目である。留意点の改善が進み、介護計画作成のルール作りは終了した。	介護計画作成に当たって、家族の参加が軌道に乗れば、プランは確実に具体的なものとなる。"その人らしさ"を支援する介護計画の検証は、次回の楽しみとしたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別サービスの記録をし、小さな気づきも詳細とし記録に残す。記録は全職員共有し、状態把握に努めている。又、口頭でも申し送りを行い、日々の記録を介護計画の見直しに活かし反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の生活を継続できるよう個々のケアに力を入れている。希望に応じて、入居前に利用していた病院・主治医にかかるなど、個々の要望に応じている。ご家族様より受けた要望を実現できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へ積極的に参加して、利用者様本人が地域の一員とし地域の方々とのふれあいを大切にしている。又、ゴミ集積所の清掃ボランティアにも利用者様へ呼びかけ、共に積極的に参加頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、入居後もかかりつけの病院へ受診することを希望するかを伺っている。希望に応じて医療機関を選択することが出来る。又、協力医と連携し適切な医療を受けられる環境づくりに努めている。	ほとんどの利用者がホームの提携医をかかりつけ医としている。週1回の往診があり、利用者も気軽に話を聞いてもらっている。急な場合には、FAXでの相談にも乗ってくれる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員が在中しておらず、体調や小さな変化も見逃さないように心掛け、常に協力医と連絡相談できる体制を完備している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、既往歴等の報告、ADL・生活情報を提供し、退院時には入院期間の看護サマリー、退院後の注意点における指示を頂いている。入院中はこまめに担当医・担当看護師と情報交換し、状態に合わせた早期退院に向け進めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者様本人・ご家族様へサービス契約書と共に説明している。病状が重度化する場合ホーム代表者・担当医・ご家族様と話し合い、今後について考えている。	入居判定会議で利用が承認されると、契約時にターミナルケアについてのホーム(管理者)の方針を利用者・家族に説明し、了承を得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域行事の防災訓練に参加するなどし、利用者様と共に応急手当の訓練を受けている。その他、職員個人で積極的に講習や勉強会を受講し、参加していない職員への指導にも取り組んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の種別を問わず年に2回の避難訓練を実施している。災害時、当施設の立地等により想定される状態から地域の避難場所としても呼びかけている。又、利用者様の非常食・飲料水の確保をしている。	年間2回の防災訓練を実施しているが、夜間を想定した避難訓練の実施がない。地域住民との協力体制も構築されていない。	夜間の災害発生時には、地域の協力が不可欠となる。運営推進会議を通して、地域への協力依頼を推し進めていただきたい。夜間想定避難訓練は必須であろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々との人間関係づくりに力を入れ、一人ひとりの人格を把握し、常に状態に合わせたケアを心掛けている。	職員の何気ない一言で、利用者の意欲がそがれたり、行動が止まってしまうことがある。利用者の尊厳を傷つけないようなケアを実践するため、管理者はOJTによって職員を指導している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、生活上において選択肢より利用者様本人で決定させられるよう、声かけ等のケアの工夫を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本人の生活を第一に個々のケアをしている。職員側の決まりや都合を優先することはない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の意思を尊重し、必要に応じて声かけ・誘導をしている。利用者様本人の希望により、馴染みの美容院を利用することもある。又、定期的な訪問理美容を利用し、本人の希望を考慮しながら支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様方の好みを伺い共にメニューを考え、調理が好きな利用者様と食事の準備をしている。又、食後の片付けも出来る範囲で利用者様方にして頂いている。	利用者が職員と一緒に準備や片づけをしている。包丁を器用に使用する利用者もいる。検食と見守りとを兼ねて、職員1名が利用者と同じテーブルで同じ食事を摂っていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの食事・水分摂取量を記録し、利用者様本人に合わせた食事の工夫を施している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後・就寝時、利用者様本人に合わせた口腔ケアをし、必要に応じて一部介助により施行。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録し、排泄パターンを把握。羞恥心を損ねないよう声かけ等の工夫をし誘導、トイレでの排泄を促す。リハビリパンツ等の使用が必要ないと判断された場合、不安のないよう普通の下着へ戻す事とする。	利用者の約半数は排泄自立しており、排泄後の確認だけである。支援を必要とする利用者に対しても、その人に合ったトイレ誘導を心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬に頼ることなく、利用者様個人に合わせた、食事の工夫や運動により便秘の予防をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様が、安心して入浴出来るよう声かけ等を工夫している。又、気の知れた利用者様同士の入浴により楽しい時間となるよう職員介入し、支援している。	全員がほぼ毎日入浴している。浴室が広いので、気の合った者同士の入浴もある。時として、男性職員の介助を嫌う利用者もいるが、その場合には女性職員と交代して支援している。	職員配置の関係で、入浴支援がおろそかになっているホームが増えている。今後も、毎日入浴の基本姿勢を継続していただきたい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活を日々充実したものにす為、一人ひとり趣味等を取り入れた時間を日中にもうけ共に楽しむ支援を行っている。日中を充実させることで、夜間の睡眠を十分とって頂く。又、医師より、必要に応じて薬の処方がある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者様一人ひとりの病気を把握し、医師より処方された内服薬等、薬の説明書にて確認している。又、処方された薬について分からない点があれば、いつでも薬剤師の方へ質問し回答頂く体制をとっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活を日々充実したものとする為、一人ひとり趣味等を取り入れた時間を日中にもうけ共に楽しむ支援を行っている。日中施設内の支援だけでなく、日々の外出支援にも力をいれている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩はもちろん利用者様本人・ご家族様より、要望頂いた場所への外出支援も出来る限り行っている。他、食材の買い物・地域行事などの参加など外出する機会を増やしている。	毎日の散歩は日課となっており、概ね3日に1度は食材の買い出しでスーパーに同伴外出している。ビデオショップから「吉本ビデオ」を借りてきて、リビングで鑑賞を楽しむ利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様本人の希望をくみご家族様の了承を得た上、可能であれば利用者様本人でお金を管理頂いている。欲しいものがある際、買い物に付き添い、可能な限りレジにての精算は利用者様本人にして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙での連絡は、希望に応じて対応している。又、年末には利用者様よりご家族様などへ感謝の気持ちを年賀状に綴り、皆一生懸命作成に取り組んでいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様方が安全で快適にその人の生活が出来るよう、支援している。フロア内の各所には、利用者様方が作成した日めくりカレンダーや季節感あふれる作品が展示されている。	リビングは適当な広さがあり明るく、壁にはイベントや遠出外出時の楽しい写真が飾られている。ソファの足元には、「少しでも家庭的な雰囲気」と、管理者と職員が相談して設置したフロアマットが敷かれており、温かな心遣いが伝わってくる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人ひとり共用空間にも個人の気に入った居場所があり、思い思い過ごしている。又、施設外の畑にて野菜や草花を育て楽しむ方もおられる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後も出来る限り、その人らしく居心地の良い生活をおくることが出来るよう、利用者様本人の居室へは、入居前その人の生活にて馴染み深い家具などを持ちこんで、そのまま利用頂いている。	利用者自らが案内してくれた居室には洗面台が設置されており、室内は整理整頓が行き届いていた。針やハサミこそ入っていなかったが、昔から使い込んだ針箱を持ち込んでいた利用者もいた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりが安全で快適に生活頂けるよう危険予測できるものは排除している。又、自己にて出来ることを増やせるように工夫をし、できるだけ自立した生活をおくって頂いている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	・10 (6)	利用者様のご家族と十分なコミュニケーションが図れていない。	・気軽にホームへ訪問いただく。 ・(現状を把握いただいた上で)要望や意見を気兼ねなく伝えられる信頼関係の構築。	利用者様のホームでの様子や状態、又ホームでの行事や地域参加などを毎月お便りで報告し、常に現状を把握いただけるように努める。	3ヶ月
2	・26 (10)	ケアプランのパターン化。	利用者様の“その人らしい”ケアプランを作成する。	その人らしさを理解するため、小さな要望・訴えも記録に残し、“今”その人が何をしたいのかをケアプランへ反映させる。	6ヶ月
3	・4 (3)	運営推進会議へ行政担当者の参加がない。	行政担当者をふくめた適切なメンバーによって、運営推進会議を実施したい。	参加いただけるよう継続して依頼を続ける。	12ヶ月
4	・35 (13)	夜間を想定した避難訓練の実施が行われていない。	地域の消防署へ依頼をし、様々な状況下における防災訓練の実施。	現在、地域主催の防災訓練へ参加していることを生かし、さらには地域住民へホームでの防災訓練へも参加いただけるよう、呼びかけ実施する。	2ヶ月
5	・11 (7)	有用な意見・提案が上がるも、実施できるものが限られている。	有用な意見・提案を、できる限り反映させていく。	有用な意見・提案であるか見極め、それがもつ本質をしっかりと理解した上で、採用されるようなアプローチを継続し行っていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。